



# 小網代通信

発行：小網代ヨットクラブ  
 〒238-0225  
 神奈川県三浦市三崎町小網代  
 1385-18  
 編集：広報委員会  
 編集長：里吉美恵子  
 連絡先：office@koaziroyc.jp

Koaziroyc Yacht Club

2023年9月号 VOL-303

2023.9.10 発行

今月の内容		ページ
連絡事項	(編集委員) .....	1
第64回パールレース 2023 参戦記	(THETIS 4 児玉 萬平) .....	2~4
夏祭りの風景(2023年8月26日土曜日)	(広報委員会)	5
今後のイベント予定		
9月 KFR	: 9月17日(日) F コース (予告信号 9:25)	
総務委員会	: 9月19日(火) 19:00~ ハイブリッド(リアル会議と Zoom 会議)で実施	

## 連絡事項

### 1. 夏祭り 3年ぶりに開催しました。

8月の最終土曜日26日は、蒸し暑さが続いた状況の中でも、時々雲が太陽を隠してくれるようなお天気でした。しかしながら、天気予報通り突然の雷雨が2度もあり、来場者も主催者側も一斉に日よけ用テントに避難する場面も。雨雲が去れば、また日焼けしそうなほどの日が差し、またまたテントの中へと。とは言え、雨の後に行われたKFRの表彰式、恒例のスイカ割り、じゃんけん大会には、近隣のお子様の参加もあって大いに盛り上がり、久しぶりの賑やかな夏祭りとなりました。参加者は、約150名(25艇)と小網代近隣のファミリーが加わりました。また、ゴミは分別用にごみ容器を設置し、参加の皆様自身に分別のご協力をさせていただきました。夏祭り風景写真を5ページに掲載しています。

### 2. 9月3日(日) 熱海ランデブーレースが行われました。

2日土曜日、熱海に7艇が集まり、前夜祭を開きました。レースは、翌日熱海より小網代に向け、レーティングの低い艇からスタートしました。詳しくは次号にて。

### 3. 第64回パールレースに「テティス4」が参戦し、クラス優勝しました。

7月28日(金) 三重県・五ヶ所湾口をスタートし、利島をまわり江の島までのレース。ファーストホーム艇は25時間50分31秒で、「テティス4」は33時間51分05秒でしたが、ORCクラスで優勝し、昨年に引き続いての同クラス連覇となりました。また、IRC-Cクラスでも優勝しCHITA杯も獲得しました。参戦記を2~4ページに掲載しておりますのでご覧ください。

### 4. 「小網代カッパレース」のエントリー受付が9月1日から始まりました。

11月4日(土)~5日(日)の開催です。小網代艇からも奮ってご参加ください。

## 第64回パールレース 2023 参戦記

THETIS 4 児玉 萬平

第64回パールレース2023に参戦し、望外の2年連続ORCクラス優勝、IRCクラスC優勝を果たすことが出来ました。ついでにレースの様子をレポートさせていただきます。

2023年パールレースは7月28日11:00五ヶ所湾口をスタートし、神の島仮想ポイント→利島→江ノ島の180マイル、参加艇54艇で行われた。仮想ポイントを回航するコースは、ほぼ全参加艇がGPSプロッターを搭載するようになったことで前回大会から採用されたが、水深も距離も問わず、運営の負担となるマークパイを打つ必要も無いので、今後も多くの外洋レースで一般化されていくと思う。

## ルーティングプラン

ロングレースの参加に当たってはスタート一週間ほど前からルーティングソフトを利用してコース・シミュレーションを繰り返す。ルーティングソフトは各気象モデルと自艇のセーリングパフォーマンスを示すポーラーデータから最適なコースを割り出してくれる便利なお助けソフトだ。本格的なレース用ルーティングソフトは米国ならEXPEDITION、ヨーロッパならADRENAがあるが、テティスの場合は、より安価で多くのクルージングセーラーが使っているPredict-Windを使用している。緻密なソフトを利用しても海流の影響が強い日本沿岸では実際のデータによる修正が欠かせないからだ。

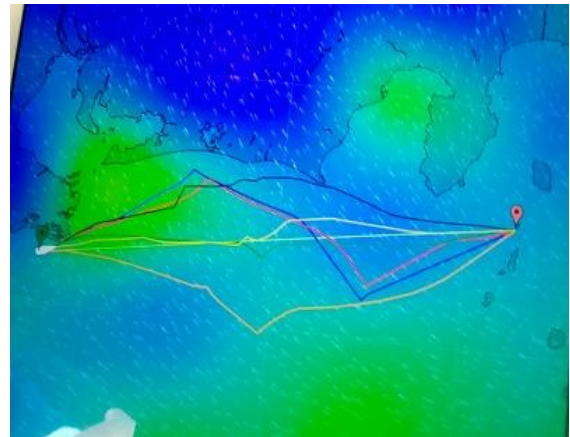
スタートの朝、気象ルーティングの最新情報をダウンロードした。なんと、スタート前数時間になっても未だ6つの気象モデルが収斂せずバラバラのコースが示されていた。これでは全く参考にならない、概ねSEの微風が予測されたので、とりあえずプロパーコースを選択することにし、風の変化と潮の状況に応じてコースを修正することにした。

レースクルーは児玉（艇長）以下、伊藤（ヘルムス、シフト）、高木（ワッチャプテン）、藤村ノブ（フローター）、ジェフ（オーストラリア製バラスト）のテティス・オリジナルメンバーと毎回ロングレースに参加してくれる、長（沖縄サクラティヤーム・スキッパー）、鎌田（浦安スパロー、オーナー）、テティスクルー研修中の金子（くろしお4年生）の8名。このメンバーをA/Bに分け3時間ごとのワッチとした。ヘルムスはワッチの中で調整、概ね1時間ごとに交代した。

微風・長時間のレースを想定して、清水を左右のタンクに130ℓずつ、合計260ℓ搭載し、熱中症対策としてシャワーも浴びられるようにした。またリタイヤした場合、最遠地点からでも機走で戻って来られる様、軽油もほぼ満タン（100ℓ）とした。

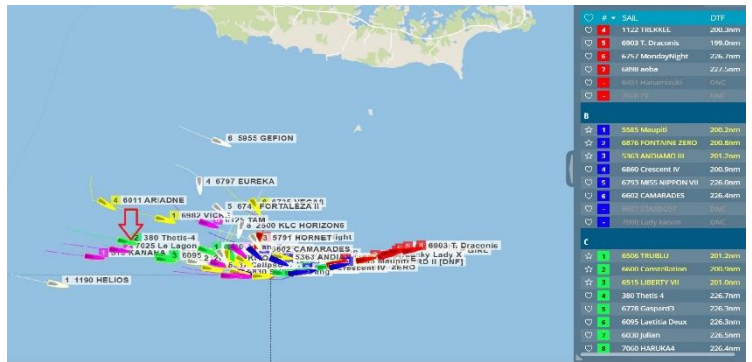
午前9時半ポンツーンを離れ、スタート地点に向かう。風は予報通りSE6kt、一番苦手な微風の上りだ。テティスはロングレースに標準を合わせ、9kt以上の風域をターゲットにルーティング対策をしている。そのためNo2を最大エリアのジブとしており、それ以下の風速は大の苦手、微風が中心のKFRでは常に苦戦を強いられている。

その苦手克服のために選択したセールが、フライング・ジェノア（正式名称はフライング・フォアセール）、コード0とジェノアの中間のデザインでルーティングは多少上がってしまう。このセールをセットし、



フライング・ジェノア

ゼネリコの後の 11:15 にアウターマーク付近からスタートを切った。スタート後すぐにファールーを解きセーラーを引き込むと、上り角度は他艇より落ちるもののスピードは伸びる。そのまま左海面に伸ばし、落とされる風のシフトを待つ。例年はこの落とされるシフトが入るのだが、なんと今年はお逆り上り始めてしまった。慌ててタックを返したが後の祭り、更に 30°もシフトして、結局最後尾艇組で仮想マークを回航することになった。



最後尾艇組で仮想マークを回航する (矢印)

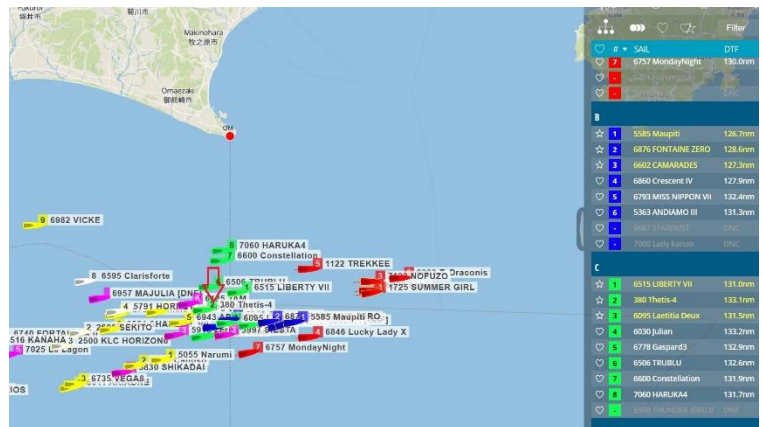
### 追走

まだ先は長い、昨年も最後尾から逆転し ORC 優勝を果たした経験があるので、その再現を期して先行艇を追う。風は予報に反して SSE10kt 前後まで上がってきて、重量級のジェブにスターボードデッキに移動してもらい更に重量を集中させると、フライング・ジェアのスイートスポットにハマったのが快走し始め、一般また一般と抜き返していく。

それにしても暑い、雲一つない夏空の太陽が容赦なく我々を照り付ける。スターボードタックなのでバランスする風上側にセーラーの陰はない。そんな時、伊藤シェフは昼食に素麺をゆでるといふ。ギャレーは灼熱地獄だろうが、冷たい素麺の食感がなんとも食欲をそそる。たっぷり積んだ清水でさらした素麺にありついた。美味しい、元気が出る。

### 漂流 10 時間

夕刻には、各予報モデルが言う様い風が落ち E あるいは NE にシフトするのではないかと、とやまきしなから風の変化を待っていたが、一向に風は落ちず、シフトも無い、ありがたい誤算だ。ポジションも夜半には御前崎灯台が後ろに見える位置まで進出し先行集団にも追いついた。追い潮も 1kt 前後ある。そして漸く風が落ち始めた。風向は SW から時に NW まで振れながら 1~3kt の吹きこどまり、セーラーは全くはらまなくなった。付近には、同クラス艇が南北に分散して漂っている。A2 ジェネカーを張るものあまりにも不安定で、ジェネカーを諦めフライング・ジェアに戻し、波の揺れに任せてバタン、バタンとセーラーをあおりながら風が来るのを待った。その間、潮は東流 2.1kt、上手い具合に利島に向かって流れていた。



夜半、先行艇集団に追いつくも風が落ちる



2 日目の昼、南風が入り始める

漂い始めて 10 時間、午前 11 時過ぎに南から風が入って来た。一番南にいた艇が急速に近づいて来る、Dクラスのアプロスだ、北にいた艇組も利島を目指して上って来る。この時点で C クラス艇組の中で最も低いレーティングのテティスが勝っていることになるが、まだ先は長い、緊張を解くわけには行かない。

### 利島回航

リパティ、ミス・ニッポンに続いて午後 3 時頃利島を回航、AWA140°を目安にランニングを走る。これ以上落とすと途端に艇速が落ちるが、J24 の名手、畠山君が舵をとり、ドイルの長谷川氏がトリムするアプロスはステールを上げた 3 枚張りで同じスピードで走りながら、われわれより 5 度は落として走っている。流石に一流の乗り手が乗り組む艇の走りは違うなあと感じて見ている。

相模湾に入れば、それなりのローカルナレッジがあり、自信をもってコースを引くが、ライバル艇を抑えることも忘れてはならない。カバーできる位置でジャイブを打ち江ノ島へ向かう。風は更に強くなり20ktを超えるまでになって来た。この長年使い込んだA2は最後まで持ってくれるだろうか、という思いが頭をよぎるが、セールチェンジの時間も惜しい、まあ大丈夫だろうと思うことにした。

江ノ島まであと6マイル、フィニッシュ1時間前コールを入れようとした矢先「ポンッ！」という音とともに急ブレーキがかかった、A2 ジェノアがピークパッチのシームを起点バーストし、ラフテープ、リーチテープに沿って破れてしまった。あと残りわずかな行程ではあったが、直ちによりタフなA3を上げ直し、少しでもタイムロスが減らそうと気を張ってトリムした。

江ノ島は久しぶりの夜間フィニッシュとなった。左右に立ちふさがり灯りの無い定置網を避けながら入って行くためにナビゲーターはプロッターと首つ引きで艇を誘導する。デッキ上では陸上の明かりの中に埋もれているフィニッシュマークを探そうと躍起になっている。先にフィニッシュした艇のスターンランプ、運船艇の航海灯、街の明かり...様々な灯火が重なって探しにくい事甚だしい。プロッターを頼りにフィニッシュラインを横切る、29日20時56分フィニッシュ。ジェネカー・バーストというトラブルがあったものの先行艇との差を詰めたのフィニッシュだ。

利島以降、成績はほぼリアルタイムで更新される TracTrac のリーダーボードで確認できた。走りながらリーダーボードを確認できるのは、良い成績の時はなんとも嬉しいツールだが、その逆となれば罪な存在かもしれない。

リーダーボード上では IRC-C クラス優勝は出来たようだ。ORC も他艇の時間を確認した結果、昨年に引き続き連覇できた様だった。

江ノ島にはコロナ罹患で乗艇できなくなった池田さんが差し入れ（アイスとスイカ）を抱えて待っていてくれた。



2年連続の ORC 杯

そしてホームポート小網代に向かう中、ここで初めてビールで祝杯を挙げる事ができた...というのもレース前の安全講習会で「熱中症ビールは絶対禁物」と強く念押しされ、冷蔵車の底に保冷剤と称して敷き詰めた2ケース分のビールに誰も手を付けなかったからだが、正直な話、私だけは誘惑に負けて皆に隠れてデッキ下でブシュッとしてしまいました。灼熱の中、ビールも飲まずに寝長ってくれたメンバーに感謝！



IRC クラス C CHITA 杯



利島回航時は修正で上位に着いた



バーストしても離れず追いついた



アイスクリームでフィニッシュを祝う  
乾杯のビールはその後で...

# 夏祭りの風景 (2023年 8月26日土曜日)

KYC 広報委員会

